

第2期計画の目標と具体的取組内容

- ◆ 具体的取組の検討の進め方について
 実証実験の評価と改善案、モニタリング結果等に基づく具体的取組のメニューを抽出し、メニュー毎に実現性、費用対効果、生態系に及ぼす影響等を勘案し絞り込みを行う。
 実証実験の評価と具体的取組の検討の進め方については、図1のフロー図に示す。

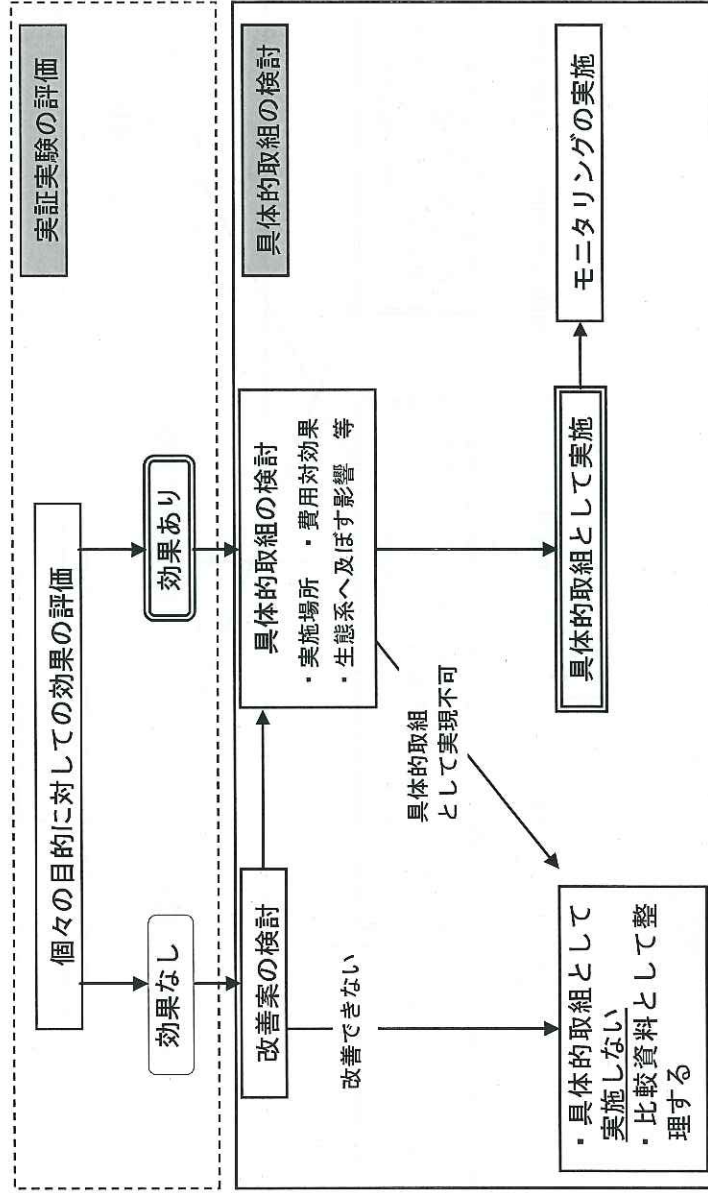


図1 実証実験の評価と具体的取組の検討の進め方

◆ 図2 第2期計画の目標と具体的取組内容

【第1期計画】

中期目標:常に多くの実生が生育する環境を整える。

短期目標:当面は実証実験により実生の生育環境を明らかにする。

植生タイプ別調査

大台ヶ原を7つの植生タイプに区分し、現況把握を実施した。

実証実験

7つの植生タイプごとに問題点を抽出し、実証実験(地表処理)を実施した。

【第2期計画】

7つの植生タイプにはあてはまらない箇所の保全への対応が必要。

静的にとらえていない動的な変化をしている箇所への対応が必要。(森林後退が進んでいる箇所など)

実証実験を評価し、植生タイプごとに具体的な再生手法を検討する。

中期目標

①大台ヶ原を特徴づける森林生態系の保全

②森林の更新環境の回復

③森林後退の抑制

④ミヤコザサ草地から森林への遷移

短期目標

① 緊急に保全が必要な箇所における対策の強化(a)

② 過剰な動物の影響や菌害の抑制による実生の成長促進(b)
林床のミヤコザサの抑制(c)
実生の定着環境等森林更新に必要な適性な林床環境の明確化(d)

③ 森林後退の場所における樹木減少の抑制(e)
森林後退の場所における森林更新の場の保全(f)
森林後退の場所における森林更新の場の創出(g)

④ 森林への遷移に誘導するための手法の検討(h)

◆ 表1 第2期計画の目標と具体的取組内容

※ 具体的取組内容の一部については、ボランティア等との協働作業による実施を検討。

中期目標	短期目標	実施場所	具体的取組内容	優先度	森林再生に資する効果	コスト	備考
① 大台ヶ原を特徴づける森林生態系の保全	a. 緊急に保全が必要な箇所における対策の強化	西大台湧水地など多様性の高い箇所	防鹿柵の設置	◎	高	高	<ul style="list-style-type: none"> ・H21～H22までの設置箇所について検討済 ・次期5か年計画の検討
	b. 過剰な動物の影響や菌害の抑制による実生の成長促進	東大台ミヤコザサ型林床の針葉樹林	母樹への剥皮防止用ネットの設置(トウヒ・ウアラジロモミ等)	◎	高	中	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した剥皮防止用ネットの巻き直しの実施 ・剥皮防止用ネットの素材検討
② 森林の更新環境の回復	b. 過剰な動物の影響や菌害の抑制による実生の成長促進	東大台ミヤコザサ型林床の針葉樹林	防鹿柵外に自生するトウヒ・ウアラジロモミ等の実生・稚樹の周囲に簡易柵を設置	◎	高	低	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易柵は人力でも施工可能なものとする
		西大台林冠ギヤップ地	パッチデファイエンス(小規模防鹿柵)の設置	◎	高	中	<ul style="list-style-type: none"> ・ミヤコザサ型植生、トウヒ・ミヤコザサ型植生、トウヒ・ロクガ疎型植生において、地表処理による菌害除去効果について把握しておく(H21調査中) ・保護が必要な林冠ギヤップ地の把握 ・人力でも施工可能な仕様の検討 ・歩道周辺、利用者からの可視範囲における配慮
	ウサギの食害が顕著な場所	防鹿柵内におけるウサギ侵入防止柵の設置	△	中	低	<ul style="list-style-type: none"> ・防鹿柵内でのウサギの動態を把握しておく ・パッチデファイエンスを実施する場合は、パッチデファイエンスのネットのスカート部分をメッシュの細かいものにする 	
	c. 林床のミヤコザサの抑制	ミヤコザサ型林床	防草シートや寒冷紗で覆うことによりミヤコザサを枯死させる手法等の検討	△	中	中	<ul style="list-style-type: none"> ・防鹿柵内に設置し、ミヤコザサを枯死させるために試験的に実施
d. 実生の定着環境等森林更新に必要な適正な林床環境の明確化	d. 実生の定着環境等森林更新に必要な適正な林床環境の明確化	東大台ミヤコザサ型林床の針葉樹林	倒木・根株の質的な評価の実施	○	中	低	<ul style="list-style-type: none"> ・実生の発生・定着に十分な倒木・根株があれば地表処理は必要ない ・実生の発生・定着に適した倒木・根株の状態・性質を明らかにする。
		機械刈りによる大規模なササ刈りの検討	◎	高	中	中	<ul style="list-style-type: none"> ・シカによる破食を受けている防鹿柵外で試験的に実施 ・柵内と柵外を連続してササ刈りし、ササの衰退状況についてモニタリングする。
	実証実験の実施による地表処理の効果の評価	△	中	高	高	<ul style="list-style-type: none"> ・針葉樹林の更新環境を整えるには表層土除去(腐植層、ミヤコザサの根系の除去)が効果的である ・地表処理を行う場合はギヤップ地や林縁で実施する 	
		水環境の把握	水環境の把握	○	中	中	<ul style="list-style-type: none"> ・水文調査の実施 ・水文調査では、近年の森林環境(森林の乾燥化等)を示すデータとして整理する。

中期目標	短期目標	実施場所	具体的取組内容	優先度	森林再生に資する効果	コスト	備考
③ 森林後退の抑制	e. 森林後退の場所における樹木減少の抑制	東大台の森林後退が進んでいる場所 ミヤコザサ型林床	母樹への剥皮防止用ネットの設置 (トウヒ・ウラジロモミ等) 防鹿柵外に自生するトウヒ・ウラジロモミ等の実生・稚樹の周囲に簡易柵を設置	◎	高	中	・ミヤコザサ型植生とトウヒ・ミヤコザサ型植生の境界部分の疎林地にて実施 ・H21に500本程度実施予定 ・剥皮防止用ネットの素材検討 ・簡易柵は人力でも施工可能なものとする
	f. 森林後退の場所における森林更新の場の保全		防鹿柵内に自生するトウヒ・ウラジロモミ等の実生・稚樹の周囲のササ刈りの実施 防鹿柵外に存在する倒木・根株の周囲に簡易柵を設置 防鹿柵内に存在する倒木・根株の周囲のササ刈りを実施	◎	高	低	・実生・稚樹の周囲の坪刈を実施 ・稚樹の成長に合わせてササ刈の継続期間を検討しておく ・必要に応じてウサギの侵入防止柵を設置
	g. 森林後退の場所における森林更新の場の創出		岩礫地などの針葉樹の実生・稚樹の生育地に小規模防鹿柵を設置 防鹿柵内の岩礫地などに必要に応じてウサギの侵入防止柵を設置 表層土除去の実施	△	中	低	・ギヤップ地などに分布しており、実生・稚樹が生育しているものを対象として実施 ・倒木・根株の表面を被っているササを除去する程度 ・必要に応じてウサギの侵入防止柵を設置 ・必要に応じてウサギの侵入防止柵を設置 ・既存の防鹿柵内でウサギの食害が顕著な場所が必要に応じて設置
	h. 森林への遷移に誘導するための手法の検討	東大台 ミヤコザサ草地	全ての森林更新過程が損なわれた箇所(ミヤコザサ型植生)において、森林への遷移の誘導を図るためにコアとなる母樹群の形成を促すための試験的な植栽の実施 ※圃場、ウヒ苗の利用	△	中	高	・針葉樹の更新の場として実施 ・A層(腐植を含んだ層)とミヤコザサの根系の除去程度にとどめる ・発芽した実生が定着できるようコアが早期に回復するよう手法を検討する ・明るい箇所(ギヤップ地や林縁)で実施 ・ミヤコザサの回復状況に応じてササ刈を実施
④ ミヤコザサ草地から森林への遷移				◎	高	中	・植栽および植栽後の管理手法の検討 ・必要に応じてウサギの侵入防止柵を設置 ・植栽する苗木が不足する場合には新たな苗木の生産を検討 ・植栽する苗木の樹種の検討

◎: 第2期計画期間で優先的に実施、○: 第2期計画期間での実施、△: 必要に応じて実施
 高: 現存する母樹・後継樹等を保護することにより森林再生が期待されるもの
 中: 後継樹の良好な生育環境を創出することにより森林再生が期待されるもの
 高: 施工コストが高いと考えられるもの、中: 施工コストがそれほど高くはないと考えられるもの、低: 施工コストが低いと考えられるもの

図3 第2期計画の目標と具体的取組内容(模式図)

